

様式第 1

十和田八幡平国立公園
(八幡平地域)

指定書

平成 28 年 2 月 22 日

環 境 省

目 次

1	十和田八幡平国立公園の指定理由	1
2	十和田八幡平国立公園八幡平地域の概要	2
(1)	景観の特性	3
ア	地形、地質	3
イ	植生・野生生物	3
ウ	自然現象	3
エ	文化景観	4
(2)	利用の現況	4
(3)	社会経済的背景	4
ア	土地所有別	4
イ	人口及び産業	4
ウ	権利制限関係	5
(ア)	保安林	5
(イ)	鳥獣保護区	5
(ウ)	史跡名勝天然記念物	6
(エ)	農業振興地域	7
3	公園区域	8

1 十和田八幡平国立公園の指定理由

(1) 景観（同一風景形式中、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地）

十和田八幡平国立公園は、奥羽山脈の北側、青森県、岩手県及び秋田県の3県が隣接する地域に位置し、八甲田から十和田湖にかけての「十和田八甲田地域」とその南側約50kmに位置する八幡平から岩手山及び秋田駒ヶ岳にかけての「八幡平地域」からなる。両地域ともに火山活動の活発な地域で、オオシラビソの原生林に覆われた火山地形や湿原など多様な自然景観及び温泉の湯治場などの人文景観が特徴的である。

「十和田八甲田地域」は、湖と火山に代表される景観を有している。標高約400mの山上に深く青い水をたたえる十和田湖は十和田火山の二重カルデラ内に形成された特徴的なカルデラ湖で、中央部の中湖火口には水深327mの最深部がある。湖を取り巻く周囲の外輪山には火山の活動によって堆積した地層や溶岩ドームなどの顕著な火山地形を観察することができる。十和田湖から流れ出す奥入瀬川は、苔むす岩を洗い、両岸からの滝と合流しながら、深い自然林の中を流れており、優れた溪流美をもつ奥入瀬溪流として名高い。十和田湖の北側には、火山活動によって形成された八甲田があり、大岳（標高1552m）を中心とする北八甲田火山群と櫛ヶ峰（1517m）を中心とする南八甲田火山群から成り立っている。

「八幡平地域」は、今も活発な活火山に代表される火山景観を有している。最高峰の岩手山（標高2038m）をはじめ、八幡平、秋田駒ヶ岳、焼山（秋田焼山）など標高1200m～1600m級の火山から形成された火山景観が見られる。これらの火山は、成層火山、溶岩ドーム、爆裂火口、カルデラ、溶岩流、火口湖等、火山活動により形成された多種多様な地形が存在し、現在でも噴気、噴湯、泥火山、地熱地帯等の火山現象が活発である。

本国立公園の風景形式は、火山連峰、カルデラ湖、原生的な自然林及び峡谷である。これらは、火山活動に関わる景観要素（成層火山、火山性高原、カルデラ、溶岩流、火山現象、温泉等）、水に関わる景観要素（カルデラ湖等の湖沼、峡谷、高層湿原、池塘等）、その他の景観要素（原生的な自然林、高山植物群落、湯治場等の人文景観等）を有する。

本国立公園は、二重カルデラ内に形成された特徴的なカルデラ湖である美しく静謐な十和田湖、八甲田及び八幡平をはじめとする火山連峰及びそれらと一体となった雄大な自然林、優れた溪流美を持つ奥入瀬溪流の傑出性が高いことから、我が国を代表する自然の風景地である。

(2) 規模（区域面積が原則として3万ha以上）

本国立公園の区域面積は85,534ha（十和田八甲田地域45,060ha、八幡平地域40,474ha）である。

(3) 自然性（原生的な景観核心地域が原則として約2,000ha以上）

本国立公園の原生的な景観核心地域は、八甲田、八幡平、岩手山及び秋田駒ヶ岳に代表される主要な火山の火口及び山稜部並びに二重カルデラ湖である十和田湖周辺であり、その区域面積は31,012ha（十和田八甲田地域22,812ha、八幡平地域8,200ha）を超える。

(4) 利用（多人数による利用が可能）

本国立公園の利用は、山岳地域の登山、湿原や湖周辺の自然探勝、ドライブ、湖における遊覧船及び温泉入浴など体験型や周遊型の利用が公園指定当時から続く利用形態である。また、新幹線等によるアクセスも比較的良好で、利便性に富んでいる。

本国立公園は、十和田八甲田地域を昭和 11 年 2 月 1 日に指定し、昭和 31 年 7 月 10 日に八幡平地域を追加指定している。

以上より、「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定について」（平成 25 年 5 月 17 日付け環自国発第 1305171 号 環境省自然環境局長通知）の別添「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定要領」のうち「1 国立公園及び国定公園の候補地の選定」に掲げる各要件を満たしている。

また、本国立公園は「みちのくの脊梁～原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場」をテーマとし、火山活動によって形作られた豊かな自然と湯治等の文化を感じられる国立公園として、風致景観の保全と適切な利用を推進するものである。

2 十和田八幡平国立公園八幡平地域の概要

十和田八幡平国立公園は、昭和 11 年 2 月 1 日に十和田湖、北八甲田火山群・南八甲田火山群の原生的な自然環境及び奥入瀬の溪流美を中核とした十和田八甲田地域が、わが国を代表する傑出した自然の風景地として十和田国立公園に指定され、その後、昭和 31 年 7 月 10 日に多様な火山景観を中核とする八幡平地域が追加指定され、現在の公園名に改称された。

八幡平地域は、岩手県及び秋田県の隣接地域に位置し、その区域は東西約 30 km、南北 35 km にわたる山岳地である。

本地域は、火山活動により形成された火山連峰からなり、最高峰の岩手山（標高 2038m）をはじめ、八幡平、秋田駒ヶ岳、焼山（秋田焼山）など標高 1200m～1600m 級の火山から形成された火山景観が見られる。これらの火山は、成層火山、溶岩ドーム、爆裂火口、カルデラ、溶岩流、火口湖等、火山活動により形成された多種多様な地形が存在し、現在でも噴気、噴湯、泥火山、地熱地帯等の火山現象が活発である。周辺には、18 世紀の岩手山の噴火により延長約 4 km にわたって形成された焼走り溶岩流、放射能を持つ含鉛重晶石である北投石が形成される玉川温泉、噴湯の熱水で形成された湖沼や河川である大湯沼や湯川など、特徴的な火山景観が見られる。

植生は標高 1000m 前後を境に下部はブナを主体とする落葉広葉樹林が広がり、上部はオオシラビソを主体とする亜高山性針葉樹林、最上部の稜線付近にはハイマツ等の高山植物帯が見られ、全体的に原生的な植生に覆われている。また、秋田駒ヶ岳及び岩手山のコマクサ、エゾツツジ等、八幡平の湿原植生や雪田植生をはじめ、山腹から山稜部にかけて各所に分布する高山植物群落も本地域の景観を構成する重要な要素となっている。

これらの豊かな植生を背景に、ツキノワグマ、カモシカ等の大型哺乳類やイヌワシ、ホシガラス等の鳥類など数多くの野生動物が生息している。

活発な火山活動を背景に、後生掛、蒸ノ湯、大深、玉川、乳頭、藤七、松川、網張、滝ノ上、国見等の温泉地が多く、保健、休養を兼ねた観光利用が盛んであるとともに、昔ながらの長期滞在型の湯治場でもあり、独特の湯治風景は貴重な文化景観となっている。

(1) 景観の特性

ア 地形、地質

本地域は、火山活動により形成された火山連峰で、最高峰の岩手山（標高 2038m）をはじめ、八幡平、秋田駒ヶ岳、焼山（秋田焼山）など標高 1200m～1600m級の火山から形成された火山景観が見られる。これらの火山は、成層火山、溶岩ドーム、爆裂火口、カルデラ地形、溶岩流、火口湖等、火山活動により形成された多種多様な地形が存在する。周辺には、18 世紀の岩手山の噴火により延長約 4 km にわたって形成された焼走り溶岩流、放射能を持つ含鉛重晶石である北投石が形成される玉川温泉、噴湯の熱水で形成された湖沼や河川である大湯沼や湯川など、特徴的な火山景観が見られる。

また、八幡平の八幡沼周辺や黒谷地湿原、秋田駒ヶ岳の阿弥陀池周辺の浄土平、山頂一帯が湿原の大白森など、多くの高層湿原が発達している。特に乳頭山周辺の笹森山北東に広がる千沼ヶ原は、本地域を代表する高層湿原で、登山道から確認できるものだけでも数百を超える池塘が湿原に散在しており、湿原の高山植物群落と周辺のオオシラビソの森林、周囲の山々や空を背景に、まさに秘境といった様相を呈している。

湖沼や湿原は、火口湖やその周辺に発達した湿原など特に山上に多いが、山の中腹にも大沼や長沼、蓬莱沼、熊沼など無数の湖沼とその周辺の湿原が発達している。また、比較的なだらかな地形に発達した湿原として大場谷地、熊谷地、前谷地などの湿原がある。

イ 植生・野生生物

植生は標高 1000m 前後を境に下部はブナを主体とする落葉広葉樹林が広がり、上部はオオシラビソを主体とする亜高山性針葉樹林、最上部の稜線付近にはハイマツ等の高山植物帯が見られ、全体的に手つかずの原生的な植生に覆われている。また、秋田駒ヶ岳及び岩手山のコマクサ、エゾツツジ等、八幡平の湿原植生や雪田植生をはじめ、山腹から山稜部にかけて各所に分布する高山植物群落も本地域の景観を構成する重要な要素となっている。

これらの豊かな植生を背景に、ツキノワグマ、カモシカ等の大型哺乳類やイヌワシ、ホシガラス等の鳥類など数多くの野生動物が生息している。

ウ 自然現象

後生掛や蒸ノ湯、大深、玉川の各温泉や焼山周辺では噴気、噴湯、泥火山、地熱地帯等の火山現象が活発である。また、噴湯の熱水で形成された湖沼や河川である大湯沼や湯川など、火山現象によって形成された壮大な景観が見られる。

エ 文化景観

活発な火山活動を背景に、後生掛、蒸ノ湯、大深、玉川、乳頭、藤七、松川、網張、滝ノ上、国見等の温泉地が多く、保健、休養を兼ねた観光利用が盛んであるとともに、昔ながらの長期滞在型の湯治場でもあり、独特の湯治風景は貴重な文化景観となっている。

また、岩手山や秋田駒ヶ岳では、神社の奥宮や参詣道由来の登山道や地名など山岳信仰の名残を今に残している。特に岩手山は、岩手県中央部から眺めることができ、郷土の象徴的な山として親しまれているとともに、多くの文人に愛されその作品の対象となっている。

(2) 利用の現況

本地域の利用は、温泉入浴、山岳地域の登山、自然探勝及び山岳地まで整備された道路を利用したドライブなど体験型や周遊型の利用が公園指定当時から続く利用形態である。平成 24 年には、十和田八幡平国立公園に 475 万人の利用者が訪れている。

また、十和田八甲田地域と八幡平地域を一体とした周遊利用や、国立公園外の周辺の主要観光地（角館の武家屋敷群や田沢湖、民営の農場等）と併せた北東北を周遊する利用も少なくない。

(3) 社会経済的背景

ア 土地所有別

本地域は、国有地 39,506ha、公有地 685ha、私有地 283ha の計 40,474ha であり、国有地の地域全体に占める割合が大きい。

イ 人口及び産業

本地域に関係する各市町村の人口及び世帯数は、次の通りである（平成 22 年国勢調査から引用）。国立公園とかかわりの深い産業としては温泉を利用した宿泊業や観光業が挙げられるほか、近年は地熱資源の開発が注目されている。

県名	市町村名	世帯数（戸）	人口（人）
岩手県	八幡平市	9,647	28,680
	滝沢市	19,334	53,857
	雫石町	5,530	18,033
秋田県	鹿角市	11,831	34,473
	仙北市	9,841	29,568

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

種類	位置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	岩手県八幡平市	4,375	昭 34. 12. 1
	岩手県滝沢市	23	昭 43. 6. 6
	岩手県岩手郡雫石町	9,296	昭 36. 12. 23
	秋田県鹿角市	2,223	昭 35. 2. 23
	秋田県仙北市	17,860	明 30. 12. 9
土砂流出防備	岩手県八幡平市	1,835	—
	岩手県滝沢市	589	明 30 年以前
	岩手県岩手郡雫石町	1,090	明 30 年以前
	秋田県仙北市	1,536	大 8. 4. 12
保健	岩手県八幡平市	5,169	昭 56. 10. 27
	岩手県滝沢市	229	昭 58. 4. 25
	岩手県岩手郡雫石町	2,122	昭 58. 4. 30
	秋田県鹿角市	1,670	平 16. 7. 6
	秋田県仙北市	5,636	昭 58. 12. 13

(民有林)

種類	位置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	秋田県仙北市	360	昭 42. 2. 23
	秋田県仙北市	0.2	昭 58. 12. 13
	秋田県仙北市	17	昭 63. 7. 30
	秋田県仙北市	0.03	昭 57. 2. 24
土砂流出防備	秋田県仙北市	0.85	昭 53. 8. 24
保健	秋田県仙北市	0.2	昭 58. 12. 13

(イ) 鳥獣保護区

(県指定)

種類	位置	重複面積 (ha)	当初指定年月日
----	----	-----------	---------

八幡平鳥獣保護区	岩手県八幡平、滝沢市及び岩手郡雫石町	15,840 (うち特保 1,742 ha)	昭 55. 11. 1
八幡平鳥獣保護区	秋田県鹿角市及び仙北市	10,913 (うち特保 3,032 ha)	昭 55. 11. 1
玉川鳥獣保護区	秋田県仙北市	3,451	平 18. 11. 1
石黒沢鳥獣保護区	秋田県仙北市	500 (うち特保 199 ha)	昭 47. 11. 1
駒ヶ岳鳥獣保護区	秋田県仙北市	2,558	昭 55. 11. 1

(ウ) 史跡名勝天然記念物

区分	名称	位置	指定年月日
国指定天然記念物	岩手山高山植物帯	岩手県滝沢市	昭 3. 2. 7
国指定特別天然記念物	焼走り溶岩流	岩手県八幡平市	昭 27. 3. 29 (天然記念物としての指定は昭 19. 11. 7)
国指定天然記念物	葛根田の大岩屋	岩手県雫石町	昭 18. 2. 19
県指定天然記念物	白沼のモリアオガエル繁殖地	岩手県雫石町	昭 31. 7. 25
国指定特別天然記念物	玉川温泉の北投石	秋田県仙北市	昭 27. 3. 29 (天然記念物としての国指定は大 11. 10. 12)
国指定天然記念物	秋田駒ヶ岳高山植物帯	秋田県仙北市	大 15. 2. 24

※一覧は地域が明確に定められている史跡名勝天然記念物を記載している。この他に、「区域を定めない」特別天然記念物のカモシカ及び天然記念物のイヌワシ等が地域内で確認されている。

(工) 農業振興地域

位置	面積 (ha)	指定年月日
岩手県岩手郡雫石町 (芳沢牧野周辺)	83	昭 44

3 公園区域

(表1：公園区域(陸域)表)

都道府県名	区 域	面積 (ha)	
岩手県	八幡平市内 国有林岩手北部森林管理署 485 林班、1552 林班、1554 林班、1557 林班、1558 林班及び 1560 林班の全部並びに 1 林班、7 林班、10 林班、12 林班、484 林班、1492 林班、1496 林班、1527 林班、1551 林班、1553 林班、1555 林班、1556 林班、1559 林班及び 1561 林班から 1566 林班までの各一部	6,462	
	八幡平市 松尾寄木第1地割及び番外地の各一部		
	八幡平市内 夜沼、石ガタ沼、石沼及び御護沼の全部並びに番外地の湖沼の一部		
	滝沢市内 国有林盛岡森林管理署 93 林班の全部及び 91 林班の一部	633	
	滝沢市 岩手山、大石渡及び番外地の各一部		
	岩手郡雫石町内 国有林盛岡森林管理署 698 林班、756 林班から 780 林班まで及び 792 林班の全部並びに 699 林班から 701 林班まで、704 林班、705 林班、709 林班、710 林班、718 林班及び 781 林班から 784 林班までの各一部	10,879	
	岩手郡雫石町 橋場字龍川山、長山字北ノ又沢、長山字中ノ又沢、西根字南ノ又沢、西根字金堀沢及び西根字大石沢の全部並びに長山字小松倉、西根字南白沢及び番外地の各一部		
	岩手郡雫石町内 ヒヤ潟の全部		
		小計	17,974

都道府県名	区	域	面積 (ha)	
秋田県	鹿角市内	国有林米代東部森林管理署 3131 林班、3132 林班、3134 林班、3140 林班及び 3141 林班の全部並びに 3127 林班から 3130 林班まで、3133 林班及び 3135 林班から 3139 林班までの各一部		
	鹿角市	八幡平字大沼の全部		
	鹿角市内	大沼及び長沼の全部	2,299	
秋田県	仙北市内	国有林秋田森林管理署 3013 林班から 3023 林班まで、3030 林班、3031 林班、3035 林班、3036 林班、3050 林班及び 3051 林班の全部並びに 3033 林班、3034 林班、3039 林班、3040 林班、3046 林班、3048 林班、3049 林班及び 3052 林班の各一部		
	仙北市	田沢湖玉川 字渋黒沢、字柳沢、字柳沢西及び字柳沢東の全部並びに 番外地の一部		
		田沢湖田沢 字女夫石沢の全部及び番外地の一部		
		田沢湖生保内 字黒湯沢の全部及び字駒ヶ岳の一部	20,201	
			小計	22,500
合 計				40,474